

カイガラムシによる新たな被害の発生について

茶業技術研究担当 宮田穂波

1 はじめに

チャにおけるカイガラムシ類は、幼虫と雌成虫が樹液を吸汁することで加害し、発生が多い場合は樹勢の衰えや枯死を引き起こす害虫とされている。

埼玉県では、2004年頃からカイガラムシ類の発生が目立つようになり、2005年にはクワシロカイガラムシ、2006年にはチャノマルカイガラムシによる茶株の枯死が発生した。現在ではこれらのカイガラムシ対策として薬剤防除や抵抗性品種の作付けが行われている。

2 被害発生と推定される害虫について

(1) 枯死症状の発生

2022年5月、現地ほ場にて茶株の一部の葉が落葉し、枯死している被害が確認された(図1)。さらに落葉している場所やその周辺の枝には、茶色または白色の細長いカイガラムシが多数寄生していた(図2)。

同年9月には、茶業研究所内のほ場でも、同様な被害が確認された。被害株の枝には、細長いカイガラムシが多数寄生しているのが見られ、さらに高密度に発生しているところでは葉の縁や表面への寄生も確認された(図3)。

両ほ場で確認された細長いカイガラムシは形態的特徴より、ナシシロナガカイガラムシであると考えられた。

(2) ナシシロナガカイガラムシとは

多様な植物に寄生する害虫であり、雌成虫は長さ3mm程度の細長い介殻をもつ。1月現在では大型な褐色の介殻は空のことが多く、白色で小さな介殻の下で、薄紫色の幼虫が越冬している様子が観察できる(図4)。

県内での発生は以前から確認されていたが、過去に坪枯れ症状が発生するほどの事例はほぼないと思われる。全国の茶園に広範囲で分布はしているが、近年の被害は少なく、静岡県の茶園で昭和20~30年代に大発生した記録が残されている。

3 最後に

当所では今後、発生状況や防除対策、生態について調査・研究を実施する予定である。現時点において、坪枯れ症状や同様なカイガラムシの寄生が確認できた場合、対処法としてカイガラムシ類に登録のある薬剤散布が有効と考えられる。発生が疑わしい場合などは茶業研究所までご相談いただきたい。

4 参考資料

- 1) 小俣良介(2007):がんばれ天敵!問題化しているカイガラムシ類とその天敵テントウムシ類. 茶業技術, 50, 48-53.
- 2) 河合省三(1980):日本原色カイガラムシ図鑑. 株式会社全国農村教育協会, 東京, pp. 185-186.
- 3) 南川仁博・刑部 勝(1979):茶樹の害虫. 日本植物防疫協会, 東京, pp. 75-76.
- 4) 愛媛県病害虫防除所(2020):令和2年度病害虫発生予察特殊報(第1号).

※ 埼玉の植物防疫 第150号. 2022.10から一部引用



図1 枯死症状(5月撮影)



図2 枝に寄生したカイガラムシ



図3 葉の縁や表面に寄生している様子



図4 枝に寄生したカイガラムシ(拡大図)

葉や枝に見られる類似した害虫の一部



図5 クワシロカイガラムシ(雄まゆ)



図6 ツノロウムシ



図7 チャノマルカイガラムシ



図8 ヒサカキワタフキコナジラムシ